

## ■ 治療の時期・一般的な治療スケジュール

手術の時期としては議論があります。

- ・足の成長がある程度安定してからの手術の方が延長量を決定しやすい
- ・整容的な問題からできる限り早く治してあげたいが、延長中はスポーツなど運動に制限がかかるため、中学生・高校生では数か月の安静は難しい。

この2点を考慮して小学校5、6年生頃が最適と考えておりますが、治療時期については診察時に相談して決めていきます。

### ・初診

レントゲン撮影、診察および手術の説明を行い、手術を受けたいか判断していただきます。手術を希望される場合は、術前の採血と手術・入院のオリエンテーションを受けていただきます。

### ・入院

手術前日に入院します。入院期間は3日から可能ですが、両足手術の場合、松葉杖が難しい場合などはもう少し長期入院が必要となります。

### ・手術当日

手術で骨切り・創外固定器を装着し、手術終了します。

術後はしばらく松葉杖での歩行となります。

### ・外来

術後4、5日程度待つてから骨延長を開始します。自宅でスクリューを回して1日2回決まった量(およそ1mm/日)だけ延長していきます。1～2週に1回程度受診していただき、レントゲンでできてきた骨の確認を行います。

1ヶ月程度で予定した長さまで延長ができれば、仮骨が成熟するまでそのままの状態で待機します。だいたい術後2～3ヶ月で骨は成熟し延長器を外して、普通の歩行が可能となります。